第50回　VICアカデミー

～弊社理念にある「学習と成長」の実践の一つとして開催しています～

「賢く（法律家）× 強く（ムエタイ）× 優しく（結婚）＝Well-Being」
講演者：トヨタ自動車株式会社　白井啓子 氏
実施日：2025年7月28日（月）

白井　啓子（しらい けいこ）



2005年　勉強が手に付かず、渋谷のジムでキックボクシングを始める
2006年　明治大学法学部卒業
2008年　全日本新空手道選手権大会女子５０kg以下の部優勝
　　アマチュアキックボクシング大会『J-GROW22』女子MVP
2009年　慶應義塾大学　法務研究科修了、キックボクシング・
　　プロライセンス登録（未更新）、司法試験合格
2010年　弁護士登録（現在登録抹消中）
2011年　外立総合法律事務所入所（～2012年）
2012年　株式会社LIXIL入社（～2013年）
2014年　ムエタイをするためにタイ移住
　　Asia Alliance Partner入社（～2017年）
2017年　YIP Asia Pacific Corporation(タイ矢崎)入社（～2018年）
2018年　森・濱田松本法律事務所バンコクオフィス入所（～2024年）
2021年　英国King’s College London 修士課程修了
2024年　イギリス人と結婚、日本へ帰国、トヨタ自動車株式会社入社

■プロフィール

中学生の時、『家栽の人』という裁判官の漫画を読んで法律に興味を持ち、暗記が得意だったのと、母親から、「女は資格があった方が働きやすい」と言われていたことも影響し、法律家を目指すようになった。しかし、得意科目は数学で、完全な理系人間で文系科目は大の苦手だったが、大学では法学部に進み、在学中に司法試験に挑戦するが、不合格に。

結局勉強が手につかず、大学在学中にキックボクシングを始めたところ、キックボクシングで学んだ訓練法を勉強に応用することによって、ロースクール（法科大学院）も司法試験も無事に合格。

その後、企業法務系の法律事務所で勤め始めるが、会社全体の法務が見たいと思うようになり、インハウスローヤーとして会社の法務部に転職。しかしそこでは契約審査が主な業務で、この仕事を数十年続ける想像はつかず、一念発起して、ムエタイの本場であるタイへ移住。

タイでは、ムエタイの試合をしながら、会計事務所や法律事務所で勤務したが、多忙で自分の将来を考える余裕がなく、リセットのため在職留学で休暇を取り、イギリスの大学院へ進学。そこでイギリス人である現在の夫と出会い、結婚後は夫の希望もあり、日本へ移住。現在はトヨタ自動車で製品訴訟や集団訴訟を担当している。

■キックボクシングとの出会い

大学生の時、司法試験のための塾に通っていたが、そこの塾長が「勉強には体力が必要である」という考え方だったため、体力づくりのためにキックボクシングを始めた。初めは週１回ジムに通う程度であったが、ジムの会長の勧めでアマチュアの大会に出たところ、結果はドローだったが非常に面白く、試合熱が高まり、度々大会に出場するようになった。

しかし全く勝てず、分析をしてみると、貧血が原因で、2ラウンド目まで体力がもっていないことがわかった。そこからは、貧血の治療をしつつ、作戦を変えて、2ラウンド制のアマチュアキックボクシングから、1ラウンド制の新空手にシフトチェンジした。すると、途端に勝てるようになり、全国大会で優勝するまでになった。貧血を克服してからは、アマチュアキックボクシングの大会でもＭＶＰを受賞し、プロ登録の権利を得たため、司法試験が終わったタイミングで、プロ登録をした。

■キックボクシングと司法試験合格の関係性

初めは司法試験に受かるようなレベルになかったが、キックボクシングで成功体験を積んで自信がついたことや、キックボクシングでの練習法を試験勉強に応用したことで、司法試験合格に繋がった。

第50回　VICアカデミー

＜キックボクシング＞

・試合に出る時、まずはルールを確認し、その縛りの中で自分の強み・弱みがどう発揮できるのかを考える。また、ゴールを設定して、そのゴールを目指した時、現状とのギャップがどれくらいあるかを考える。
・戦いやすいフィールドを選び、2ラウンド制のアマチュアキックボクシングは自分に向いていないと考え、1ラウンド制の新空手に転向
・どんなトレーニングをする時も、常に目的を意識していた。例えばスパーリングをする時に、「今日はローキックを相手に当てられるようになる距離感を知るための練習」など。

＜司法試験＞

・2～3か月分の学習スケジュールを作り、2週間に1回修正した。
・販売されている不合格者の答案を入手し、不合格になる理由を分析し、ゴールを、“受かる”ではなく、“落ちない”に設定し、兎に角不合格にならないにはどうしたらいいかを考えた。
・60分の試験であれば、練習の時には30分で正答率99%になるまで訓練し、本番では絶対に時間が余るように準備した。
・試験の1週間前から、食事の内容・時間・お手洗いに行くタイミングなど、本番と全く同じになるように予行演習をした。

キックボクシングと司法試験は自転車の両輪のようなもので、キックボクシングをやっていなかったら、司法試験に受からなかったと思っている。

■ムエタイ修行のためタイへ移住

司法試験に合格し、司法修習が始まったが、司法修習生は国家公務員という立場になるため、兼業ができず、プロボクサーとして試合に出られず、キックボクシング熱が一旦冷めた。また、冒頭に話した通り、インハウスローヤーになった後、契約審査等のルーティンワークを続けることが難しいと感じ、かつ、キックボクシングを真剣にやりたいと考え始めた。

そこで、試合に出ない言い訳ができない環境に身をおきたいと考え、ムエタイの本場であるタイに移住。この決断には、母から「何でも本物を知ることが大事」という教育を受けてきたことも影響した。

タイ語は全くできない状態で渡泰したが、日本語や英語が話せるタイ語教師に文字や文法から教えてもらうのではなく、タイ語しか話せない教師から、実践的な会話を身振り手振りで学んでいくという、乳幼児が言語を習得していくような方法でタイ語を学び、1～2週間で日常会話はできるようになった。この学び方だと、頭の中で一度日本語に変換してからタイ語に翻訳するという手順を踏まないので、会話がストレートに身につきやすい。これは、他の言語を学ぶ時もお勧めしたい方法。

■結婚から学んだこと

その後イギリスで今の夫と出会い、結婚。結婚から得た大きなことは、考え方の変化。元々自分は、「掃除してくれない」「洗濯を干すのが下手」など、相手のことを減点方式で考えてしまう性格だったが、夫は加点方式の考え方で、最初から相手に期待をしていないからこそ、相手が何かをしてくれた時に、小さなことでも感謝することができる人だった。加点方式の夫と共に暮らすにつれ、自分の考え方も加点方式に変わっていったことが、結婚して非常に良かったこと。

支えてくれる人がいることによって心理的安全性が高まったし、人間的な深みが出たと思っている。

■法律家という仕事

法律家を目指した中学生の時から、司法試験に受かるまでは検察官を目指したが、司法修習をしてみると、毎日刑事事件に触れるのは精神的に相当ハードと感じ、弁護士希望に転向。弁護士にもいくつか種類があり、ドラマなどで良く扱われているのは一般民事だが、元々会社法が得意だったこともあり、企業法務を専門とすることを選んだ。

企業法務では、M＆Aや予防法務を目指した。M＆Aは企業買収、予防法務は法令違反が起こる前に事前に予防する、所謂コンプライアンスと言われる部分。

実際に弁護士事務所で働いてみると、（一番を目指すなら当然だが）仕事第一という環境で、趣味やプライベートの時間が取りづらく、キックボクシングと勉強を両立してきた自分としてはストレスが溜まった。

現在はトヨタ自動車の法務部に在籍しているが、元々理系科目が好きだったので、技術関係の法務がやりたいと思っていたこともあり、やりたいことができている環境。

■まとめ

自分の人生のテーマは、「人生は一度きりなので、やりたいことはやる」ということ。また、常に挑戦と成長をし続けること。成長ができなくなったら、すぐに次のステップを考えること。色眼鏡や偏見を取り払って、何でもとにかくやってみるということ。

法律家やファイターとして様々な経験をしてきたが、共通点を見つけながら成長することで、今の自分にたどり着くことができたと考えている。